

題目 適応的な自己主張度の日米差とその原因 ―社会生態学的アプローチによる検討―

氏名 武居比呂馬

指導教員 結城雅樹

本研究は、適応的な自己主張度の文化差とその原因について、社会生態学的アプローチからの説明を試みた。先行研究では、東アジア人の自己主張が白人や南アジア人より低いと示されてきた。だがこうした文化差が見られる原因は十分に明らかになっていない。本研究では、この文化差を生み出す社会環境要因として、関係流動性とそれに基づく社会的評判の獲得・回避といった適応課題の違いに着目し、これらが自己主張の文化差に影響するという武居 (2023) で検討した仮説の追試を行った。さらに、自己主張の文化差は行動のみならず選好においても一貫しているか、新規の検討も行った。日本人とアメリカ人を対象にしたオンライン質問紙調査の結果、先行研究と一貫して、回答者自身の自己主張度に対する関係流動性とポジティブ評判を媒介した間接効果は見られたが、ネガティブ評判を媒介した間接効果は見られず、賞と罰の非対称性が再現された。そして、他者の自己主張度の選好についても、アメリカ人は6件法の自己主張尺度で平均得点が6点の人を、日本人は4点の人を最も好むという、予測通りの文化差が確認された。また日米ともに、他者の自己主張の時間を奪ってまで自分の意見を述べる人を好まず、日米共通の価値観の存在も示唆された。